

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：平成 18 年度～平成 21 年度
 課題番号：18590670
 研究課題名（和文） 進行癌症例に対する新治療戦略の確立 IVR・化学療法併用治療の評価
 研究課題名（英文） Establishment of new treatment strategy for advanced cancers: efficacy of combination therapy of interventional radiology and chemotherapy
 研究代表者
 椎名 秀一郎（Shiina Shuichiro）
 東京大学・医学部附属病院・講師
 研究者番号：70251238

研究分野： 進行癌

科研費の分科・細目： 消化器内科・肝臓

キーワード： 進行癌、IVR、化学療法、大腸癌、胃癌、肝転移

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、IVR（主にラジオ波）と全身化学療法とを併用した治療の有用性を評価し、進行癌症例に対する新たな治療戦略を確立することである。具体的には、体内に存在する癌細胞の大部分が肝臓に存在するような進行大腸癌・胃癌症例（すなわち、肝転移が主な病変であり、肝外には比較的小さな病変しかないような症例）に対し、低侵襲治療である経皮的ラジオ波焼灼療法で効率的に癌の減量治療を施行した後に化学療法を行ない、化学療法単独治療群と比較して、生存率の改善が認められるかどうかを検討する。

2. 研究の進捗状況

ラジオ波と全身化学療法とを併用した集学的治療の有用性は、現在までに大腸癌肝転移 120 例超、胃癌肝転移 20 例超を治療し、切除不能例が多く含まれるにもかかわらず、肝切除と同等と思われる生存率が達成されており、長期生存例も少なくないことから、示されてきている。しかし、多施設共同でのランダム化比較試験に関しては、現在の体制では資金等を考えても困難であり、今後どのようなスタディデザインにするかを検討中である。

3. 現在までの達成度

ラジオ波と全身化学療法とを併用した集学的治療の有用性は、学会等でも一定の評価を得られるようになってきている。

4. 今後の研究の推進方策

ラジオ波と全身化学療法とを併用した集学的治療の対象となるような大腸癌肝転移、胃癌肝転移の患者をさらに集めることにより、研究成果の評価をより確かなものにしたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 8 件）

1. 椎名秀一郎：転移性肝癌 内科 2006;97:1034-5.
2. 椎名秀一郎：転移性肝癌のラジオ波焼灼術(RFA) 肝・胆・膵 2006;53:957-64.

3. 椎名秀一郎：ラジオ波焼灼術 日本臨床麻酔学会誌 2006;26:281-8.
4. 椎名秀一郎：東芝 Aplio とコンベックス穿刺プローブ PVT-350BTP による経皮的ラジオ波焼灼術 映像情報 Medical 2006;38:591-4.
5. 椎名秀一郎：肝転移に対するラジオ波焼灼術(RFA) コンセンサス癌治療 2007;6:214-9.
6. 椎名秀一郎：転移性肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術(RFA) 消化器科 2007;45:108-13.
7. 椎名秀一郎：誌上ディベート 転移性肝癌 ラジオ波焼灼術を推進する立場から Frontiers in Gastroenterology 2008;13:18-25.
8. 椎名秀一郎：進行癌症例に対する新治療戦略の確立 - IVR・化学療法併用治療の評価 がん治療のあゆみ 2008;23-31.

〔学会発表〕（計 5 件）

1. 椎名秀一郎：PD11 転移性肝がんの治療戦略転移性肝腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術（RFA）DDW Japan (2006.10.1-13 札幌)
2. 椎名秀一郎：DEBATE「RADIOFREQUENCY ABLATION FOR PRIMARY AND METASTATIC LIVER TUMORS」第33回日本低温医学会総会 (2006.11.23-24 東京)
3. 椎名秀一郎：WS1 進行消化器癌に対する経皮的ラジオ波焼灼術(RFA)を中心とした集学的治療の成績 第94 回日本消化器病学会総会 (2008.5.9 福岡)
4. 椎名秀一郎：PD1 大腸癌肝転移に対するラジオ波焼灼術(RFA)第44 回日本肝癌研究会 (2008.5.22 大阪)
5. 椎名秀一郎：PD2 大腸癌肝転移に対するラジオ波焼灼術(RFA) DDW Japan (2008.10.1 東京)

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕